

まえがき

平成17年3月の福岡県西方沖の地震により、福岡県内では家屋や事業所などに甚大な被害が発生しました。

また、毎年の自然災害により日本各地で多くの被害が発生しています。

災害は、とき・ところ・ひとを選びません。被害を最小限に抑えるためには、行政機関の対応(公助)はもとより、「自分の命は自分で守る(自助)」「自分たちの地域は自分たちで守る(共助)」という心構えを持って、日頃から災害に備えるとともに、地域ぐるみで防災体制を確立していくことが重要です。

このため、県では、総合防災訓練や地域防災シンポジウムの開催、市町村における高齢者や障がいのある人などの避難行動要支援者一人一人の個別計画の策定支援、地域防災の要(かなめ)である自主防災組織の育成・強化など、地域の防災力強化に取り組んでいます。

一方、学校教育でも近年、防災に関する指導の充実が図られてきました。文部科学省は平成10年に作成した防災教育のための参考資料『「生きる力」をはぐくむ防災教育の展開』を、平成25年に新たに学校防災のための参考資料『「生きる力」を育む防災教育の展開』として改訂しました。

また、令和2年度から実施の新学習指導要領では「防災・安全教育」の充実が図られており、学校における防災教育の重要性はますます高まっているといえます。

防災教育副読本地震・津波編では、災害に関する基本的な知識や取るべき行動をまとめており、指導参考資料では授業における防災教育の進め方や参考資料を掲載しています。

より多くの先生方に活用いただけるよう、本文だけでなく、使用している画像等のデータも、インターネットでの閲覧やダウンロードを可能にしています。

防災教育副読本地震・津波編及び指導参考資料が、小学校の防災教育に広く活用され、学校や地域における防災力の強化につながることを期待しています。

本書の活用について

家庭で防災について話し合うきっかけになるように、参観日や引き渡し訓練の際に保護者へ副読本のコピーを渡して活用しましょう。